

## 山形県福祉サービス第三者評価結果公表基準

### ①第三者評価機関

株式会社 福祉工房

### ②事業者情報

名称:社会福祉法人 <small>恩賜 財団</small> 済生会支部山形県済生会 特別養護老人ホーム 愛日荘	種別: 特別養護老人ホーム
代表者氏名: 施設長 鈴木 弥夫	定員(利用人数): 長期入所 80名 短期入所 20名 通所介護 24名
所在地: 山形県山形市大字妙見寺4番地	電話: 023-632-2791

### ③総評

#### 評価概要

#### ◇特に評価の高い点

##### 1. 地域との連携

本施設は昭和55年に設立され、開設後30年以上が経過し、地域との融和が進んでおり、地域の方達から頼りにされる施設となっている。福祉に関する相談や、地域でのイベントへの参加、施設の夏祭り等のイベントへの地域の方の参加、地域の方との防災会議の設置、多数のボランティアの来所等、地域に溶け込んだ印象のある施設となっている。地域包括支援事業はたまたま、施設のある地域とは離れた場所での活動となっているが、センターとの連携した地域貢献活動も活発に行われている。地域の公式輪上げ大会の指導や、なでしこプランによる障がい者の受け入れなど地域に対する貢献や交流が実施されている。

##### 2. 防災活動への取り組み

防災マニュアルが作成され、それに基づいた定期的な点検や訓練が実施され、訓練には消防本部、地域の消防団、地域住民の参加があり、非常用食料等の備蓄もされ、職員は防災に関する専門的研修の受講、施設として県の防災士会への参加、福祉避難所としての指定等防災面での施設としての取り組みが活発に行われている。

##### 3. 利用者に対する適切な処遇

利用者への食事の提供、入浴介助、排泄管理、利用者の整容支援、利用者個々の生活に合わせた支援、等、利用者の状態に応じた支援が適切に行われている。

#### ◇改善を要する点

##### 1. 職員や利用者への周知

理念、事業方針、事業計画に関して明文化されてはいるものの、パンフレット や広報誌等への記載がなく、又職員へ周知度合いを確認する仕組みも不足しており、利用者、家族、職員が一体となった活動がなされていない恐れがある。周知を行っていく仕組み、活動が期待される。

##### 2. 職員への個別スキルの把握と教育

職員への各種教育、研修は年間計画に基づき行われ、外部研修等の受講後は他職員への伝達研修も適宜行われている。しかしながら、各職員のスキルに関する分析は行われておらず、一律の研修となっている。各職員の個別の技能等の分析を行い、各職員個々に対応した研修計画の策定と実施が、より効率的なスキルアップにつながると共に、職員のモチベーションの向上にもつながると思われ、この面での改善が望まれる。

##### 3. 人事考課

現状は年功序列が主体となっており、一部昇格時に考課が反映されるのみである。施設長による個別面談が行われ、各職員の意向、課題、目標に関する話し合いが行われているが、特に考課には結びついてはいない。目標設定、自己評価、上司評価、フィードバック等、一連の人事考課の仕組みに関する見直しが望まれる。

##### 4. 利用者満足への取り組み

聞き取り調査、個人面談は行われているが、調査の結果を分析、評価、公表、といった一連の仕組みが明確となっていないため、調査ただけで終わってしまう可能性もある。今後仕組みとして作り上げていくことが望まれる。

#### ④第三者評価結果に対する事業者のコメント

施設の新たなスタート、多床室から個室ケア(ユニットケア)へ変化を遂げながら、高齢者ケアの在り方を見直す良い機会と捉えていました。月日が経てば疲弊し現在の位置さえ見失ってしまうことも多くなります。現状の見直しと方向性を確認することを考え初受審しました。

今回の評価をもとに、自施設における基本方針、目的をより多くの方々に知って頂けるよう行動し、優れているところは継続し更なる向上をめざし、課題や変更点は職員一丸となり議論し対応に取り組みながら職員全体の歩む方向を確認しながら職員の機能アップ、意識向上に繋げ、高齢者ケア及び地域包括ケアシステムへの足掛かりにしたいと考え、施設の見える化を目指したいと考えています。

#### ⑤各評価項目にかかる第三者評価結果

(別紙)